

津和野町埋蔵文化財報告書

高田遺跡Ⅱ

平成3年度高田遺跡発掘調査概報

1992

津和野町教育委員会

例　　言

1. 本書は、島根県鹿足郡津和野町大字高峯通称高田地区内に所在する高田遺跡において、平成3年度に津和野町教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査にあたっては、下記の方々にご指導いただいた。

島根県教育委員会文化課 川原和人氏
津和野町文化財保護審議会会长 鈴川兼光氏
3. 本書に用いた方位は、第1図及び第2図においては真北を示し、その他の図においては磁北を示す。
4. 本書中の実測図に記載されたグリッド名及び発掘区（L～S区）の名称は、平成2年度の調査時に設定した方眼及び発掘区（A～K区）を承継したものである。
5. 調査によって作成された記録類及び出土遺物は、津和野町教育委員会に保管されている。

はじめに

津和野町では、昭和52年度以来町内各所では場整備事業が実施されてきました。津和野町教育委員会では、ほ場整備事業の計画策定後、事業主体者である津和野町土地改良区と、事業計画地内に所在する埋蔵文化財の取扱について協議を重ねてきました。高田遺跡においては、昭和63年度以降継続的に分布調査を実施し、埋蔵文化財保護のための詳細な資料を蓄積してきましたが、ほ場整備事業の性格を勘案した上で、一部記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。平成2年度には、3,000m²の範囲を対象とした調査が行なわれ、縄文時代後期から近世初頭にいたる複合



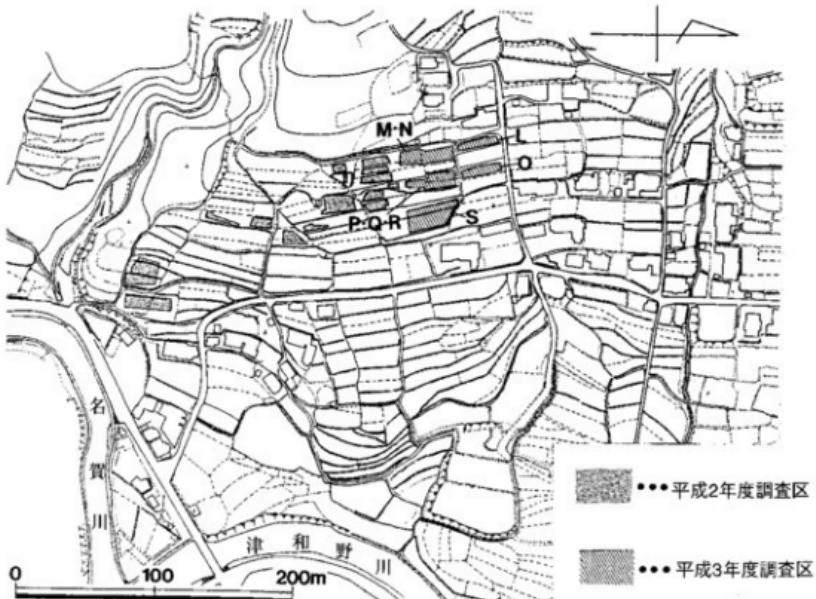
第1図 高田遺跡周辺遺跡分布図

- 1.高田遺跡
- 2.喜時雨遺跡
- 3.宝篋印塔（伝吉見民部の墓）
- 4.大蔭遺跡
- 5.茶臼山城跡
- 6.鷲原八幡宮
- 7.中荒城跡
- 8.要害山砦跡
- 9.津和野城跡
- 10.陶晴賢本陣跡
- 11.中座遺跡群
- 12.西中組遺跡
- 13.山崎遺跡
- 14.森遺跡
- 15.丸山遺跡
- 16.山根遺跡
- 17.宝篋印塔（伝吉見正頼夫人の墓）
- 18.宝篋印塔（伝吉見頼行の墓）
- 19.唐人焼窯跡

遺跡の存在が確認されました。今年度の調査地は、平成2年度の調査地に隣接しており、2,900m²の範囲が対象となりました（第2図）。

高田遺跡は、島根県鹿足郡津和野町大字高峯通称高田地区に所在します。津和野川とその支流名賀川によってはさまれた扇状地上に立地し、標高523mの雲井峯の山麓にあたります。遺跡の周辺には、縄文時代後期後半の土器や石器が多量に採集されている大藪遺跡（第1図4）が隣接するほかは、中世の遺跡が顕著にみられ、津和野城（第1図9）を中心とする諸支城、砦が取り巻き、高田遺跡の北側には、中世津和野の領主吉見氏の本拠地であったと推定されている喜時雨遺跡（第1図2）が存在します。

平成2年度の高田遺跡の発掘調査では、縄文時代後期の土塙墓や平安時代の掘建柱建物、中世の掘建柱建物、地鎮祭跡、木棺墓が確認されています。中世の遺構、遺物が遺跡の主体をなしており、ここに吉見氏時代の武士団集落が存在したことが推定され、吉見氏の本拠地の一画をなしていた可能性が考えられます。



第2図 高田遺跡調査区位置図

調査の経過

今年度の調査は、7月から始まりました。平成2年度の調査で使用した調査区画を延長継続し、南北方向に則した10m×10mの方眼を調査地全域に設定しました。発掘区は、平成2年度の調査の際の発掘区（A区～K区）を継続しL区～S区と呼称しました(第2図)。遺構の検出具合によっては、適宜発掘区を拡張し、M区とN区、P区～R区は一つの発掘区に統合しました。掘り下げは、まず重機により耕作土を全面的にはぎ取り、基盤土以下は手掘りによって行ないました。基盤土下は遺物包含層である黒色の火山灰土で、遺物の出土地点を平板実測しながら掘り下げました。遺構は、地山面上で検出し、隨時写真撮影、実測を行ない、記録をとりました。取り上げた遺物については、水洗、注記ののち接合、復元を行ないました。

調査は、平成4年3月まで実施しました。



掘り下げ作業



遺構検出作業

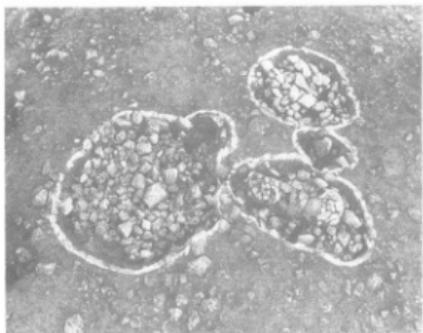


現地説明会風景

各区の概要



L区全景（南から）



M区・SK-16、17、18（南から）



M区・SK-18（土器棺墓・南から）

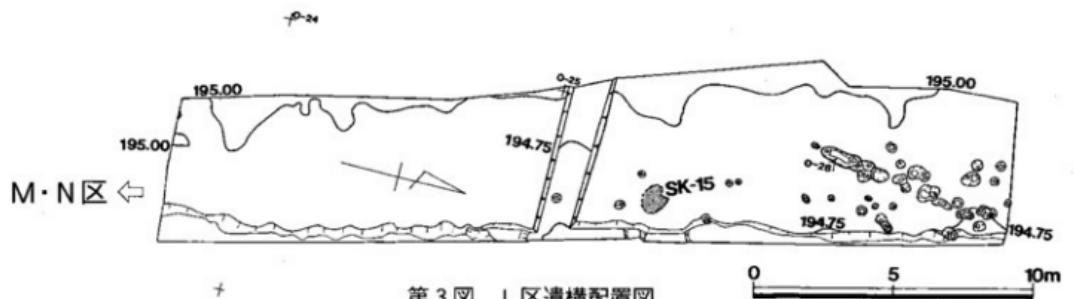
L区（第3図）

L区では、土坑1基（SK-15）と柱穴を検出しました。SK-15は、拳大の礫を埋土中に多数含む形状いびつな土坑で、遺物は出土しませんでした。

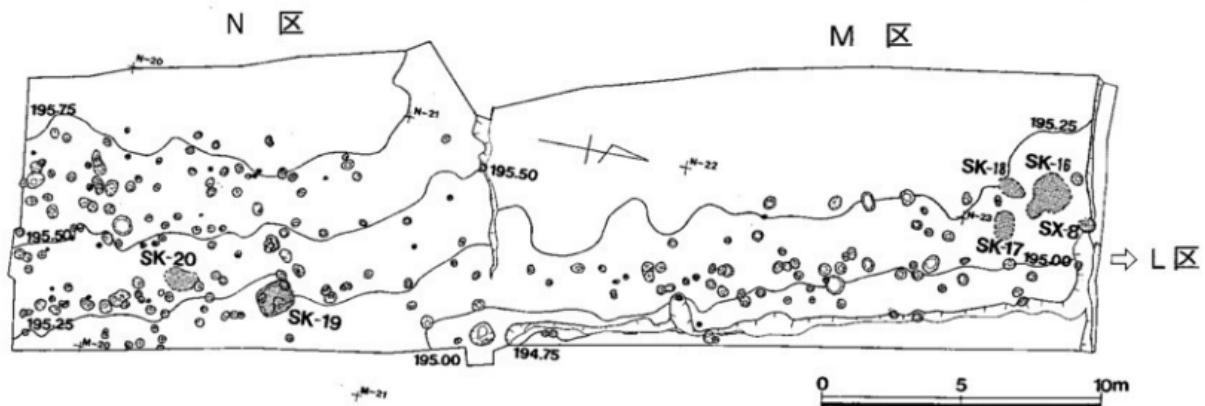
L区では、遺構の配置に顕著な偏りがみられ、遺構の空白部分に道路的なものまたは広場的な性格のものの存在が推察されます。

M・N区（第4図）

土坑6基（SK-16～20、SX-8）と柱穴を検出しました。SK-16、17は、拳大程度の礫を充填した土坑で、SK-16からは弥生時代後期の甕が出土しました。SK-18は、弥生時代後期の甕が3体横倒しに連なった状態で検出された土坑で、土器棺墓と思われます。SK-16、17も、その位置関係からみて、墓であると考えられます。SX-8からは、中世の土師器皿と銅錢が一枚ずつ出土しており、地鎮祭に係わる遺構である可能性もあります。



第3図 L区遺構配置図



第4図 M・N区遺構配置図

〇区（第5図）



〇区・SK-22（縄文時代の土坑・北から）



〇区・SB-5（掘建柱建物・南東から）

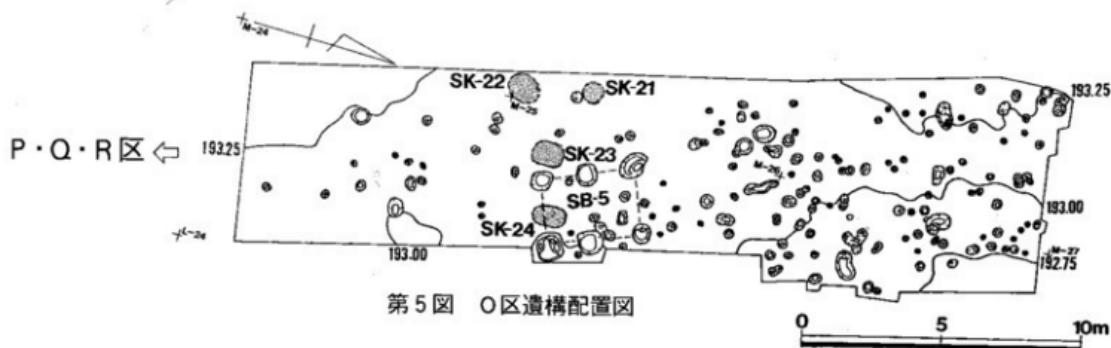
土坑4基（SK-21～24）と掘建柱建物1棟（SB-5）、柱穴を検出しました。SK-21～24は、押型文土器を出土しており、縄文時代早期の土坑と思われます。円形から楕円形の平面プランで、SK-23には、人頭大の礫が充填されていました。4基が集中して存在することから、墓としての性格が考えられます。

SB-5は、掘建柱建物で、柱穴の規模から中世より古い時代のものである可能性があります。

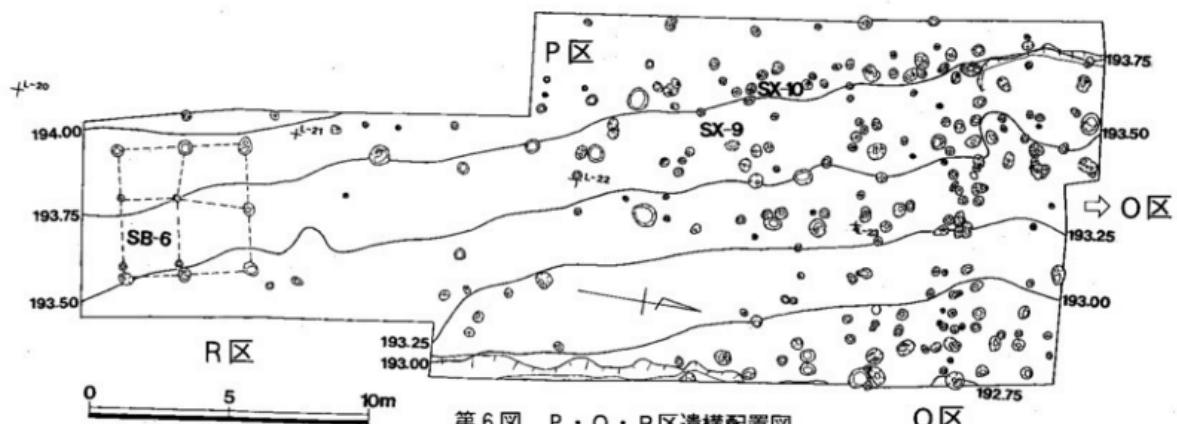
〇区でも、遺構の配置の偏りがみられ、L区の遺構空白部分が〇区の南側部分まで及んでいるものと思われます。



〇区全景（南から）



第5図 O区遺構配置図



第6図 P・Q・R区遺構配置図



P区・SX-9（土器棺墓・東から）



R区・SB-6（掘建柱建物・北西から）



S区・SI-1（竪穴住居・東から）

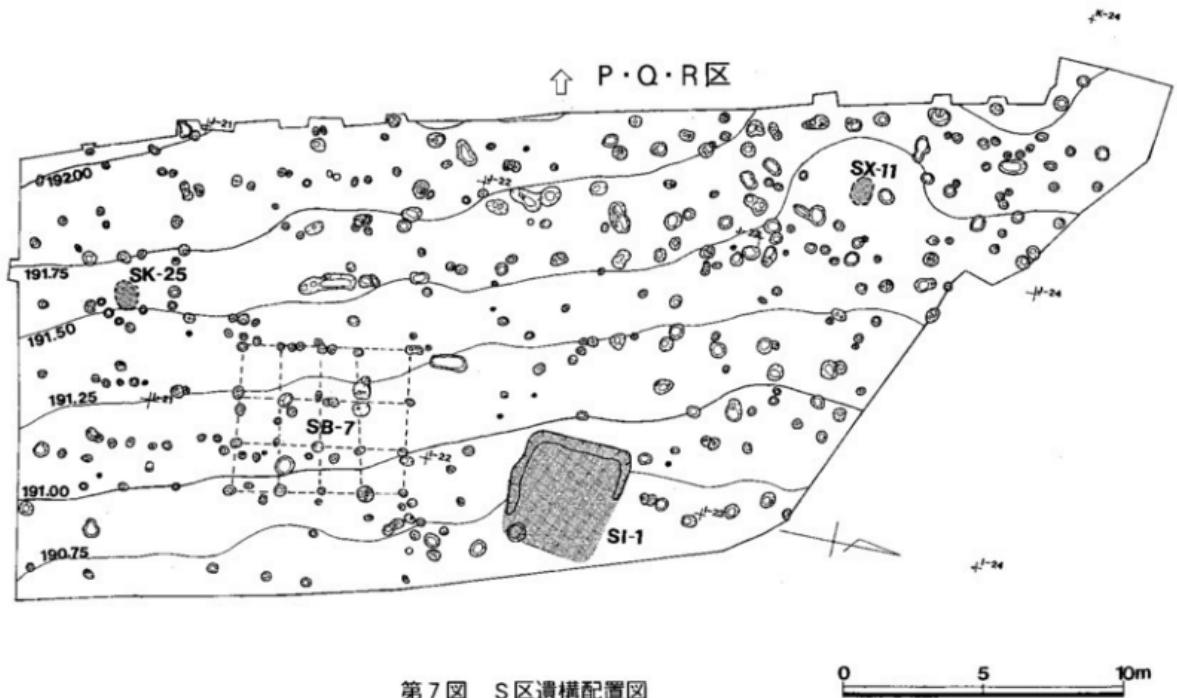
P・Q・R区（第6図）

土器棺墓1基(SX-9)、
掘建柱建物1棟(SB-6)
を検出しました。SX-9
は、M区のSK-18と同様
な構造を持つ弥生時代後期
の土器棺墓と思われますが、
上部を削平されているため
か、土坑を検出することができ
ませんでした。

SB-6は、検出した範
囲では2間×2間の縦柱の
掘建柱建物で、柱穴の規模
から中世のものであると思
われます。なお、SX-10
の柱穴から、まじないに用
いられたと思われる梵字の
墨書きされた中世の土器楕
の底部（第8図）が出土し
ています。

S区（第7図）

土坑1基(SK-25)、
竪穴住居1棟(SI-1)、
掘建柱建物1棟(SB-7)
土器棺墓1基(SX-11)
を検出しました。SI-1
は弥生時代後期終末頃の竪
穴住居で、東側を削平され
ていますが、4×4mの規
模をもつものと思われます。
SX-11は、弥生時代後期
の土器棺墓と思われます。

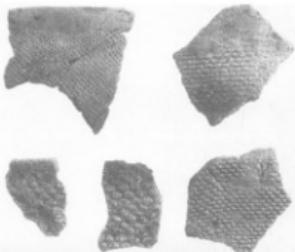


第7図 S区遺構配置図

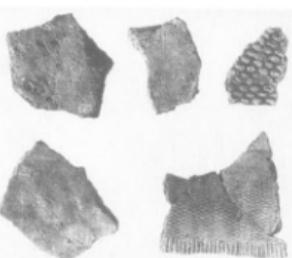
出土した遺物



石斧、石鎌



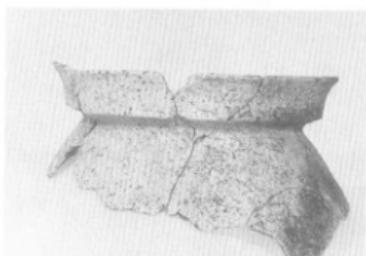
押型文土器（外面）



押型文土器（内面）



M区・SK-18出土甕



S区・SI-1出土甕



器台



器台



須恵器壺蓋



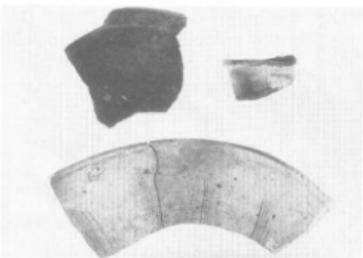
須恵器壺身



綠釉陶器



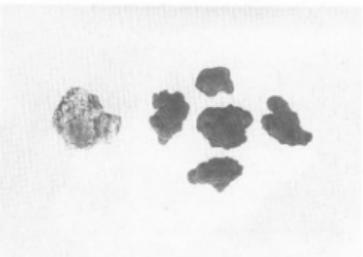
青磁、白磁、染付



土師器鍋、釜、瓦質土器すり鉢



土師器椀



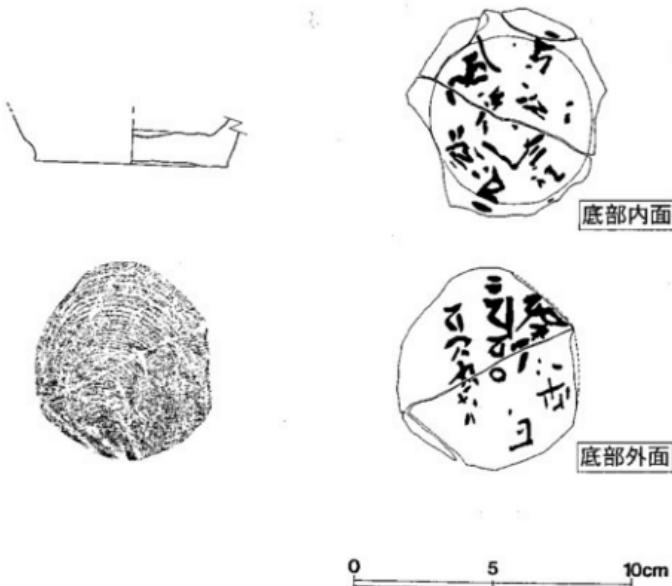
鞴の羽口、鉄滓



鉄製品

検出した遺構

| 遺構名 | 規模・m | 性格 | 時期 | 遺構名 | 規模・m | 性格 | 時期 |
|-------|-----------|------|------|-------|-----------|-------|------|
| SK-15 | 1.00×0.78 | 不明土坑 | 不明 | SK-25 | 1.01×0.81 | 不明土坑 | 不明 |
| SK-16 | 1.29×1.10 | 土壤墓 | 弥生後期 | SX- 8 | 0.58×0.56 | 柱穴 | 中世 |
| SK-17 | 0.98×0.67 | 土壤墓 | 弥生後期 | SX- 9 | 0.52×0.32 | 土器棺墓 | 弥生後期 |
| SK-18 | 1.03×0.61 | 土器棺墓 | 弥生後期 | SX-10 | 0.41×0.30 | 柱穴 | 中世 |
| SK-19 | 1.24×1.07 | 不明土坑 | 不明 | SX-11 | 0.45×0.36 | 土器棺墓 | 弥生後期 |
| SK-20 | 1.14×0.72 | 不明土坑 | 不明 | SB- 5 | 3.30×2.40 | 掘建柱建物 | 不明 |
| SK-21 | 0.70×0.65 | 土壤墓 | 縄文早期 | SB- 6 | 4.50×4.50 | 掘建柱建物 | 中世 |
| SK-22 | 1.20×1.09 | 土壤墓 | 縄文早期 | SB- 7 | 6.00×5.00 | 掘建柱建物 | 中世 |
| SK-23 | 1.11×0.82 | 土壤墓 | 縄文早期 | SI- 1 | 4.00×3.96 | 竪穴住居 | 弥生終末 |
| SK-24 | 1.17×0.68 | 土壤墓 | 縄文早期 | | | | |

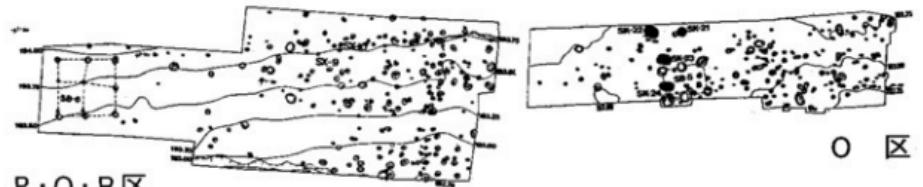


第8図 P区・SX-10出土墨書土器



M・N区

L区



P・Q・R区

O区



S区

第9図 高田遺跡平成3年度調査区全体遺構配置図

0 10 20m

